



ロータリー：
変化をもたらす

Rotary International District 2800 2017-2018

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER vol.5

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

ガバナー月信 第5号



青少年交換オータムキャンプIBS (来日学生) in 蔵王

CONTENTS

- ガバナーメッセージ
- ロータリー財団コーナー
- 公共イメージ推進コーナー
青少年交換・学友小委員会コーナー
- 米山奨学・学友コーナー
第2ブロックI・M報告
- ガバナー公式訪問
- 米山奨学学生レター
- ローターアクトのコーナー
インターアクトのコーナー
- 青少年交換学生月次報告
- 青少年交換オータムキャンプ
- 出席率
ロータリー情報のコーナー
- 新入会員紹介／表彰関係
- 11月のスケジュール

11



国際ロータリー第2800地区
2017▶2018年度

◇ガバナー／鈴木一作
◇R.I.会長／イアン H.S. ライズリー
◇R.I.理事／斎藤直美、石黒慶一



親愛なる会長・幹事・ロータリアンの皆様へ

2017-18年度 国際ロータリー第2800地区
ガバナー 鈴木 一作

RIテーマ

ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY: MAKING A DIFFERENCE)

地区目標

美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

◆ロータリー財団の歴史を知ろう

11月は、「ロータリー財団月間」です。ロータリー財団を正しく理解・認識するには、その歴史を知る必要があります。歴史については、2800地区のホームページ「ロータリーを学ぶ」の“ロータリー財団を正しく理解する”にまとめてあります。その文章は、地区内外から引用の了承依頼も多く、簡潔で分かり易い内容ですので、ぜひご一読ください。

◆ロータリーは寄付集めをする団体？

ベテランのロータリアンから、「最近のロータリーは、寄付集めの団体になったのか？」という言葉をししばし耳にします。実際、決議23-34に明記された「クラブ自治権」や「社会奉仕事業の在り方」を考えた時、ロータリー財団があまりにも強大な組織となり、地区やクラブを通して財団への寄付を推奨され、かつ財団による奉仕プログラムを奨励されることを、少なからず苦々しく思っているロータリアンもいるでしょう。

◆ロータリー財団とは？

しかし、ロータリー財団への寄付は決して強制や強要ではないし、それがロータリーの会員資格の条件になっているわけでもありません。ロータリー財団の標語「世界で良いことをしよう (Doing good in the world)」は、財団創設者であるアーチC.クラフの言葉「寄付による基金をロータリーで作り、世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしよう」が起源です。実際、財団の使命は、「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」と定められています。また、自らの組織を「ロータリー財団は、寄付を受け、ロータリークラブや地区を通じて実施される人道的・教育関係の活動に資金を分配する非営利財団である」と定義しています。つまり、良いことをしている団体なのです。

◆ロータリー財団の収入と支出

では、ロータリー財団の収入と支出はどうなっているのでしょうか。概観すれば、収入は「全世界からの多額の寄付」、そして「それらの運用収益」の二つです。一方、支出は「財団そのものの管理運営費（約2%）」、「寄付推進事業（約7%）」、そして残りの約91%が寄付全額にほぼ相当する「財団プログラムの活動運営費」です。つまり、運用収益だけで支出の約10%を賄い、寄付の全額は財団プログラムに使うという方式です。まさに、前述の「財団の定義」そのものです。

◆ロータリー財団と特別月間

さて、ロータリー財団「グローバル補助金」の重点分野は、「①平和と紛争予防／紛争解決、②疾病予防と治療、③水と衛生、④母子の健康、⑤基本的教育と識字率向上、⑥経済と地域社会の発展」の6つです。実は、これら6つ全てがロータリーの特別月間になっていることを、皆様にご存知でしょうか。すなわち、①が2月、②

が12月、③が3月、④が4月、⑤が9月、⑥が10月の特別月間に相当します。そして、この11月は「ロータリー財団月間」です。もしかしたら、ここまで財団事業がロータリーに組み込まれていることについて、不満を抱くロータリアンもいるかも知れません。

◆ロータリーだからこそできる奉仕プロジェクト

しかし、「世界で良いことをしよう」が財団のスローガンであることも、またグローバル補助金で「持続可能で大規模かつ国際的な奉仕プロジェクトを行う」ことができることも確かです。さらに、ロータリーの目的には「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」とあるのです。「地区補助金」や「ポリオプラス」、「ロータリー平和センター」なども併せて考えれば、ロータリー財団が支援・提供しているのは、地域に根差しながら国際的な繋がりを持つ「ロータリーだからこそできる奉仕プロジェクト」であると言ってもよいでしょう。そういう意味では、財団事業への支援と取り組みは、ロータリーの使命の1つだと思います。

◆ロータリーの目的こそ、ロータリアンの矜持

だからと言って、財団事業への支援と取り組みがロータリーの主たる事業ではないことも確かです。ロータリーの目的は、「クラブで会員間の親睦を広め深めながら奉仕の心を磨き合い、職業倫理とロータリー精神に満ちた立派なロータリアンを育て、人生のあらゆる場面で奉仕の実践に尽力すること」であり、これこそが「美しい心、ロータリアンの矜持」の真髄です。財団事業をはじめ、ロータリーの使命とも言うべき大切な事業は他にもたくさんありますし、今後、それらの変革もますます必要でしょう。それだけに、「美しい心、ロータリアンの矜持」を見失うことがあってはならないと思うのです。

ガバナーの想い

先月号で、「全クラブがR I会長賞のスタートラインに立って欲しい」とお願いしました。調べたところ、10月10日時点で40クラブがロータリークラブ・セントラルへの目標登録を終わっています。特に、会員数13名、平均年齢75歳の立川RCが登録してあったのを見て、その心意気には私は目頭が熱くなりました。未登録のクラブは、早急に対応してください。なお、幾つかのクラブは目標設定数が10に達していないので、確認の上、追加登録をお願いします。以下、追加や進捗も含めた登録方法を記載します。

先ずMy ROTARY (<https://my.rotary.org/ja>) でアカウント (保存か記録しておくこと) を登録後、「会員コーナー (運営する、行動するでも可)」→「ロータリークラブ・セントラル」→左段の「目標設定・確認センター」の順にクリック。クラブ名の下に7項目が並んでいます。右端の「すべて」を使うのが便利です。<2017-18>を指定して、「すべて」→上方左端の「編集」→右端各段の「目標を選択」

の順にクリック後、「目標」や「進捗」に記入していきます。R I会長賞には少なくとも10個以上の目標設定が必要ですが、各段の「詳細と履歴の表示」を参考にすれば、大部分に記入が可能です。最後に、上方左端の「保存」のクリックを忘れないでください。

進捗については、「目標設定・確認センター」へ記入していきますが、その下段にある「奉仕活動」、会員コーナーの「ロータリーショーケース」などにも記入が必要な場合がありますので要注意です。なお、パソコン操作など不明な点については、R I日本事務局 (☎03-5439-5800) に問い合わせれば、懇切丁寧に教えてくれます。

今年度のR I会長賞は、2016年以降の標準クラブ定款第3条「ロータリークラブの目的」で規定されている内容 (CLP: クラブ・リーダーシップ・プラン) そのものです。標準クラブ定款は遵守義務があります。全クラブ、R I会長賞を目指して頑張りましょう。



補助金・奉仕プロジェクト小委員会
委員長

小松 栄一 (寒河江RC)

ロータリーの基金

ロータリー財団への寄付は、下記の各々の基金に繰り入れられて運用されます。

年次プログラム基金

年次プログラム用の寄付金を入れておくものです。寄付金は寄付の3年後に地区に戻されて使われますが、その間の運用収益はロータリー財団の運営、寄付推進、一般運営費に使われます。寄付3年後に地区に戻された年次プログラム基金の寄付金は、その50%が地区財団活動資金 (District designated Fund = DDF) に、残りの50%が国際財団活動資金 (World Fund = WF) に割り振られます。地区財団活動資金は、地区補助金とグローバル補助金とに分けられます。地区補助金の上限は、DDFの50%と決められています。

- ①地区補助金：財団の使命（ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること）と一致する奨学金、プロジェクト、旅行に充てるために、地区に一括で支給されます。
- ②グローバル補助金：重点分野の範囲内にある奨学金、プロジェクト、職業研修チーム (VTT)、また

場合によって旅行のために授与されるものであり、これらは実施地の地域社会が主導し、その成果が持続可能、測定可能なものでなければなりません。

ポリオ・プラス基金

ポリオ・プラス・プログラムとそれを支援して授与される補助金全てを支払うための基金。寄付者は、ポリオ・プラス基金を指定して寄付します。

恒久基金

その収益だけを財団プログラム（人道的、教育的、文化交流プログラム）の支援に使う基金です。

ロータリー平和センター冠名基金

世界7ヶ所のロータリーセンターの研究を支援するための資金援助。17,000万ドルを目標に、恒久基金から独立して運営されています。

表彰、認証

年次プログラム基金、ポリオ・プラス基金、またはロータリー財団が承認した補助金プロジェクトに、累計で1,000ドル以上の寄付した方はポール・ハリス・フェローとして、そして寄付累計が1,000ドル増える毎にマルチプル・ポール・ハリス・フェロー（8段階）として、さらに寄付累計が10,000ドルに達するとメジャードナーとして、また毎年1,000ドル以上を寄付する方はポール・ハリス・ソサエティ・メンバーとして認証されます。

ガバナーの思い

2800地区では、申し送り事項として「年次基金一人50ドル以上」、「ポリオ・プラス基金一人10ドル以上」、その上で「ロータリー財団全体で一人150ドル以上」の寄付をお願いしていますが、例年、ポリオ・プラス基金の寄付がかなり少ないです。

ロータリー財団によるポリオ予防接種の支援活動は、1979年にフィリピンで始めて以来、122カ国、20億人以上の子供たちに実施してきました。わずか60円ほどのワクチンで、一人の子供を生涯、ポリオウイルスから守る

ことができるのです。そのおかげで、全世界でポリオの年間発症数（約35万件）を99.9パーセント減らすことに成功しました。これは、偉業とも言える成果でしょう。

ビル・ゲイツ氏は、本年6月のアトランタ国際大会で「ロータリーからのポリオ撲滅への寄付に対し、ゲイツ財団が2倍額の上乗せを行う」ことを約束しました。つまり、ポリオ撲滅への財団寄付は、結果的に3倍となるのです。クラブや地元地域で募金活動を行い、ポリオ撲滅活動にご協力ください。

公共イメージ推進コーナー



公共イメージ推進小委員長
高橋 眞己 (南陽東RC)

鈴木一作ガバナー年度もスタートして早4ヵ月が過ぎ、ロータリーのメインイベントである地区大会の開催案内が届く時期になりました。私は今年度に入って間もなく体調を崩してしまい、委員会の役割である公共イメージの推進にあまり関われずきたことに対し、大変申し訳なく思っているところです。

SNSの活用

さて、皆様のクラブでは、クラブ単独のホームページあるいはFacebookの作成はお済みでしょうか。特に、クラブ毎のFacebookの活用は、鈴木ガバナーの要望事項の一つでもあります。これは、ロータリーの公共イメージ推進のため、RIが推奨しているSNS (Social Networking Service: Web上で社会的ネットワークを構築可能にするサービス) 活用の一環で、FacebookのほかにもInstagram、LINE、mixi、LinkedInなどがあります。クラブ単独でなくても、会員個人のFacebookへクラブの事業や奉仕プロジェクトを写真と共にアップしてくれば結構ですし、もちろんInstagramやLINEの活用でも構いません。こうした取り組みは、今年度RI会長賞の「第3分野の②」にも相当します。

「ロータリーの友」誌の活用

また、「ロータリーの友」誌の積極的活用もお願いいたします。鈴木ガバナーは、ロータリーが存在を知ってもらい、地域、国内、そして世界レベルの奉仕事業の紹介・宣伝にも繋がるよう、家庭や職場に「友」誌を置いておく運動を推奨しています。ご自分の書棚の片隅に「つん読」のではなく、多くの人の目に触れることこそ公共イメージの推進になるからです。皆様の協力をお願いいたします。

青少年交換・学友小委員会コーナー



青少年交換・学友小委員会 委員長
今間 勝見 (鶴岡西RC)

早いもので、今年度も4ヵ月が経とうとしております。鈴木一作ガバナーも公式訪問をはじめ地区内外の予定を忙しくこなしていますが、当委員会も遠藤伸一青少年奉仕委員長をはじめ、スポンサークラブ、委員の方々の精力的なご協力、ホストファミリーのご好意、そして地区事務所の菅野さんのご尽力をいただきながら、多忙な中にも充実した活動を行っております。

さて、今年度の来日学生4名と派遣学生4名は、それぞれ新しい留学生活が始まっています。私は、ホストクラブ、ホストファミリー、そして当委員会が密接に連携し、暖かい心と適度な節度を大事にしながら、来日学生を支えることを大切にしています。そして、そうした積み重ねが交換留学派遣先にも反映され、派遣学生が現地でも多大な恩恵を受けるようになると考えております。

私にとって青少年交換・学友小委員長は初めての役職であり、送り出すにしても、また受け入れるにしても大変な仕事だということを実感しており、歴代委員長の有能さと努力に頭が下がる思いです。

そろそろ来日学生・派遣学生も留学生活に慣れてきた頃だと思いますが、既に次年度の派遣学生の選考も始まっています。ロータリーが地区毎に青少年交換プログラムを高等学校に提唱し、候補学生を募集・選考するわけですが、スポンサークラブが決まらないとどうにもなりません。今後の目標として、地区内で偏らないスポンサークラブをお願いしていきたくと思っていますので、何卒ご協力ください。

青少年交換学生は、発達途上にある学生です。前向きな姿勢の交換学生を、1年間ではありますが、暖かく見守りながら支援していく委員会活動を心がけてまいります。ガバナー月信のマンスリー・レポートに目を通していただき、青少年交換プログラムへのご理解・ご支援をお願いいたします。

ガバナーの想い

今年度のRIテーマは、「ロータリー:変化をもたらす」です。それだけに、ガバナー月信の編集発行には特に力を注いでいます。例えば、地区委員長には「想いを語る、または重要事項を伝える」コーナーの執筆をお願いしました。また、各クラブには、他クラブへの参考や意欲喚起にも繋げたいとの狙いから、自分のクラブの魅力や特長を書いています。インターアクトやローターアクト、青少年交換

学生、米山奨学生についても、さらなる理解と支援に繋がるよう、自分達の活動状況や想いを書いてもらっています。さらに、巻頭のガバナーメッセージだけでは言及しきれない内容は、「ガバナーの想い」のコーナーに書いています。情報量が増えて字が小さいとお叱りも受けていますが、編集部一同、「変化をもたらす月信、読み応えある月信」を目指して頑張っていますので、何卒ご理解ください。

米山奨学・学友コーナー



米山奨学・学友委員
依田 聡 (米沢上杉RC)

サブ世話クラブから始めてみませんか

本年4月27日、米沢の4クラブ合同観桜会がグランドホクヨウで行われました。当日は、米沢の全ての奨学生（宋侶洋さん、李聡さん）、世話クラブ（米沢RC、米沢中央RC）、サブ世話クラブ（米沢おしょうしなRC、米沢上杉RC）、大学関係者指導教授（山形大学大学院の會田忠弘教授、山形大学の兒玉直樹教授）、カウンセラー（田中隆一氏、斎藤栄助氏）が一堂に会しました。合同観桜会が盛大に行われる中、ロータリアンと奨学生、大学関係者との交流も和やかに進みました。こういう有意義で貴重な機会が持てるのも、米山奨学制度のおかげです。



「米山奨学生の世話クラブやカウンセラーになるのは、ハードルが高いな～」と考えている方もいらっしゃるでしょうが、まずはサブ世話クラブに応募されることをお勧めします。サブ世話クラブは、世話クラブの経験が少ない、または奨学生の学校から遠隔地のクラブに担当してもらう制度です。年に2回程度、米山奨学生が例会に出席し、国際親善・相互理解を深めながら、米山奨学制度の素晴らしさを知ってもらうことを目的としています。

第2ブロックI・M報告



第2ブロックガバナー補佐
大滝 孝一 (立川RC)

9月30日(土)、立川RCがホストとなり、第2ブロックI・M並びに鶴岡6RC合同例会が、鶴岡市のグランド・エル・サンで開催されました。

I・Mテーマは、「真(まこと)の奉仕を地域と世界へ」です。これは、立川RCの例会場に掲げている「スローガン」、「モットー」、「立川RC会員の行動規範」でもあります。私自身、この言葉は『ロータリーの目的』の真髄とも言うべき「知り合いを広めて、職業上の高い倫理基準を保ち、日々奉仕の理念を實踐し、国際理解、親善、平和を推進する」を最も端的に言い表しているのではないかと思います、とても気に入っています。当日は、サブテーマを「デンマークを通じて共生社会を考える」として、S・R・Aデンマーク社代表のケンジ・ステファン・スズキ氏に基調講演をしていただきました。

デンマークは、北欧の小国でありながら、「ゆりかごから墓場まで」を實踐する超高福祉国家で、高負担にも関わらず国民の満足度が世界一。そして、自然エネルギー利用の最先進国でもあります。かつてエネルギー自給率が数%だったデンマークは、2度のオイルショックを乗り越え、原子力に頼ることなく、今やエネルギー輸入国から輸出国へと変貌しているのです。デンマークはどのようにして、このような豊かで幸せな国を作ることができたのかを、日本と比較しながら皆で考えることが目的です。

岩手県出身ながらデンマークに住んでいるスズキ氏の話からは、「高緯度地帯特有の厳しい自然と歴史、狭い国土を環境汚染からどのように守ろうとしてきたか」、「大人になってからも自由に大学で勉強できるのは、大学を卒業することが目標ではなく、大学で学べる勉強そのものが目的である」、「何度でもやり直しの効く社会である」など、日本との違いに驚かされました。ロータリアンの熱心な質疑からも、デンマークという国に大きな興味が沸いた様子がうかがえました。もちろん、社会規模や歴史、国民性の違いもあり、デンマークが全て良いとは言いきれませんが、豊かな共生社会を築いていく上で、学ぶことが多い講演だったと思います。また、この講演は一般市民にも公開し、ロータリーの公共イメージ向上のための一助ともいたしました。引き続きの鶴岡6RC合同例会に始まる懇親会も大いに盛り上がり、会員同士の友情を深め合うことができました。

最後に、当日は諸行事の多い中、県内各所を駆けまわって来訪くださった鈴木一作ガバナーからの「実り多いI・Mでしたね」との言葉に感謝申し上げ、報告といたします。

山形東RCを語る

来訪日：2017年8月18日(金)
幹事：深瀬 俊路

我がクラブの自慢は、「一致団結」の結束力と行動力です。会員数は最盛期の約半分となりましたが、人数が少ないがゆえの「会員の顔と想いを交わし合う」ことをベースにクラブが運営されています。ですから、山形東RCの会員増強は、人数を増やすことよりも、会員の資質向上を目指すこと（小クラブ主義）なのです。

現在31人の会員は、チャーターメンバー、在籍10年以上の会員、在籍10年未満の会員が概ね1/3ずつです。そのため、「いざとなれば」まとまるものの、その過程では思い描く到達点や手法が「同床異夢」の場合が少なくありません。実際、同じテーマで話し合う時でも、常に喧々諤々の意見交換と確認作業が必要となります。それでいて、誰でも真摯な意見を述べられる自由な雰囲気の中、「多様性」が容認されるクラブです。もちろん前例やしきたりは踏まえますが、「根拠は何か」「いま」「ここ」を直視する『語り合いの場』の積み重ねが会員同士の友情を育み、会員の秘めたる異能も発揮される、驚きと敬愛の念が醸成されていくクラブなのです。

我がクラブを語るには、地道に、かつ継続的に取り組んできた特色ある奉仕活動に触れないわけにはいきません。例えば、高齢者施設でのイベント参加と支援。腎バンク活動への寄付と協力。フィリピンへの学校寄贈。県立保健医療大学のサークル学生と連携協働しながら、ハンディキャップ児童とのキャンプ、芋煮会、クリスマスや子どもの日のイベント開催等々。特に大学生と連携協働しての奉仕活動は、地元商店街、ライオンズクラブ、日本赤十字などとも協力しながら、互いを尊重し合い、彼らの成長を見守り支え、創立以来30年に亘って続けてきた自慢の事業です。これらの奉仕活動は、自分達にできる「何か」が必ずあることに気づかされ、互いに支え合う喜びをもたらしてくれています。



我がクラブの矜持を漢訳すれば、「転輪倶楽部」。すなわち、「絶えず奉仕の理念に基づく機会を発見し（転輪）、一緒に（倶）、理想の実現を楽（ねが）い、実践し続ける集い（部）を志すこと」です。



立川RCを語る

来訪日：2017年8月24日(木)
幹事：瀧 静壽

月山山頂から立谷沢川、最上川に沿って黄金の波打つ田園風景が広がる旧立川町一。この地に立川RCが創設されたのは、42年前でした。一時は40人以上の会員の時もあり、その精神を引き継ぎ今日に至っていますが、残念ながら会員減少の波は避けられず、現在13名になってしまいました。それに加え高齢化が進み、平均年齢75歳（61歳～89歳）です。

我がクラブの自慢は、会長・会員スピーチ中心の例会の楽しさ、年6回の移動例会としての家族例会（クラブ全体が一つの大きな家族）、そして会員誕生日・夫人誕生日・結婚記念日を祝福した記念品の贈呈です。また、活動としては、早朝の公園清掃、広場「風車村」への芝桜植栽事業などがあります。

今年は、立川小学校統合10周年記念事業の「校内相撲大会」にワンタッチ TENT を寄贈しました。小学校に集まった大勢の地域住民、招待された錦戸部屋の親方や関取の皆様をもてなすのに役立ちました。

鈴木一作ガバナーの公式訪問では、我々のクラブの地道な活動をよく理解してくださり、大いに励まされ、新たな意気込みをいただいた次第です。少人数、高齢であっても、その利点を生かしてできる奉仕活動の大切さを再認識しているところです。



新庄あじさいRCを語る

来訪日：2017年8月30日(水)
幹事：沼澤 正則



「和を以て貴しとなす」一、これこそが新庄あじさいRCの自慢の一つ。創立以来24年、今も変わらぬクラブの姿です。会員数15名と小規模なクラブではあるものの、例会場にはいつも笑顔があふれています。特に、月に1度開催される夜の移動例会は、日本酒好きのメンバーらが会を盛り上げます。1人あたり1升の日本酒を空にしたこともあるなど、話題も尽きません。もちろん、楽しんでばかりではありません。クラブ運営で課題が出れば、全員が知恵を絞り、解決に向けて力を発揮します。そんなメリハリのある活動ができるのも、メンバー1人1人がクラブの「和」を大切にしているからです。

もう一つの自慢は、地域に根ざした活動を継続して展開していることです。新庄最上地域は慢性的な医師不足に加え、夜間救急の8割が軽症患者という現状があります。それが医師の過重負担となり、医師の定着化を阻んでいます。地域住民が安心して暮らせる社会を実現するため、長年にわたり「私たちとお医者さんを守る会」の活動を支援しています。私たちの支援が少しずつ地域への周知に広がり、ロータリーの存在意義を高めています。これからも、会員相互の親睦を深めながら、地域になくってはならない団体を目指して活動していきます。



米沢RCを語る

来訪日：2017年8月31日(木)
幹事：我妻 弘一

平成27年に「女性活躍推進法」が国会で成立し、内閣でも「すべての女性が輝く社会づくり」の実現を目指している中、米沢RCの自慢は、他クラブに先駆けて「女性が活躍しているクラブ」となっていることです。現在、会員数は61名ですが、女性会員が8名もいて、2800地区では初めての女性会長も誕生しました。また、女性会員は多いだけでなく、2016-17年度の中途入会者を除いた6名の女性会員の例会出席率は100%でした。これも、女性会員が出席したくなるクラブ運営を心がけているからだ、と、自負しているところです。

ベテランロータリアンが積極的に会務に携わっていることも、我がクラブの特徴の一つです。現在16名のパスト会長を中心に、ロータリー歴の浅い会員は様々な助言をいただいております。ロータリー歴4年の私がなんとかクラブの幹事を務めていられるのも、そんな先輩方からの助言・指導のおかげです。それともう一つ、ロータリーのことは何でも知っている事務局の上杉さんのおかげでもあります。

今年、米沢RCは創立60周年を迎えますが、50周年のときに開始したカンボジア奨学事業が実を結びつつあります。カンボジアでは退学する大学生が多いのですが、今年、奨学事業に関与した卒業生がようやく誕生する運びとなりそうです。今後は、40~50代前半の若い会員が先輩方の事業を引き継ぎながら、大いに新たなチャレンジをしていってくれることを祈っています。



▲メコン大学の3名の奨学生（米沢RCでは、他にパンニャサ大学で2名の学生に奨学金をお渡ししています）



酒田中央RCを語る

来訪日：2017年9月1日(金)
幹事：土井 清一

我がクラブは、昨年度、創立30周年という節目を迎えました。メンバー37名、31年目の新たな絆でスタートした本年度は、上林ガバナーエレクトを擁し、クラブ全員でガバナー年度に向けて邁進しているところです。

さて、酒田中央クラブは、「酒田囃子」を演奏するための「山車」を自前で製作し、平成6年から「酒田まつり」に参加（毎年5月19～20日の2日間）してまいりました。当初は、400年の歴史と伝統を有する「酒田まつり」に参加することで、祭りの賑わいを盛り上げ、地域活性化の一助になればと考えておりました。しかし、平成10年に酒田市養護老人ホーム「松林荘」を訪れたことを契機に、「酒田囃子」の演奏活動を、かけがえのない社会奉仕活動の場として新たに認識するようになりました。

松林荘の広場で「酒田囃子」を披露したところ、若かりし頃の「山王祭」の記憶と思い出がよみがえってきたのか、聴き入っていた高齢者の方々が大量の涙を流し、不自由な身体を揺らして歓喜する様子を目の当たりにして、私たちは予想だにできなかった驚きと感銘を覚えました。外出もままならないお年寄りの方々に「酒田まつり」を「出前」することが、こんなにも喜んでいただけるのかと改めて認識を深くした次第です。それは私たちにとって、探して見つけた奉仕活動ではなく、自前で始め、自前で出会った、かけがえのない奉仕活動へのスタートであったように思います。



その後、「酒田まつり」の雰囲気をもっと味わっていただきたいとの一心から、伊勢神宮で20年に一度行われる「式年遷宮お木曳き行事」に由来するとされる「酒田木遣り保存会」と連携し、かつては「山王祭」と呼ばれていた祭事の伝統を営々と継承する「木遣り」を加えて、市内各所の高齢者が居住する福祉施設等を訪問する活動を毎年継続して行っています。今では、多くの入居者の方々が「酒田まつりが今年もまたやってくる」と、私たちが打ち鳴らす鉦や太鼓の賑やかな祭囃子を楽しみに待っていてくれるのです。

年を追って「出前」の依頼数が増え（昨年度は6カ所訪問）、私たちの活動は、来年5月の「酒田まつり」参加で25年目を迎えます。これが当クラブの自慢です。



長井RCを語る

来訪日：2017年9月5日(火)
幹事：大道寺 信

創立55周年を迎えた我がクラブの自慢は、会員数は29名ですが、年齢層が34歳から92歳まで幅広いことです。特に92歳の渡部保太郎PGは、ほとんどの例会に今でも出席されています。まさに頭の下がる思いですが、ファイヤーサイドミーティングなどで年何回かは卓話をしていただき、クラブ設立当時の苦労やロータリーの歴史、考え方などをご教示いただいています。そのおかげで、会員間のロータリー観は共有できていると言ってよいでしょう。

当クラブの課題は会員増強であり、特に30～50歳代の若年層が少ないことです。それだけに、例会の回数や内容の見直し、月1回程度の夜例会の実施、青年会議所との合同例会などを通して、楽しくて参加しやすい例会、若い会員や会員候補者との懇親などにも心がけています。

また、今年度はRI会長の方針である植樹を、長井中央RCと合同で、長井市陸上競技場で行うことにしています。その植樹行事に、地区大会へ出席されるRI会長代理も参加できないかとの打診が鈴木一作ガバナーからありました。大変光栄なことであり、ぜひ成功裏に実施できるよう準備を進めているところです。

時代も大きく変化する中、これからも充実したロータリー活動ができるように努力をしてまいります。



鶴岡南RCを語る

来訪日：2017年9月7日(木)
幹事：佐藤 與蔵



我がクラブは、「山椒は小粒でピリリと辛い」をモットーに、気負わず楽しく着実に前進するように頑張っています。例えば、月1回の夜の親睦例会は、楽しくてユニーク、それでいて実のある懇親の場となっています。具体的には、地域の食材（だだちゃ豆、新ソバ、寒鱈）や季節行事（花見、雛膳、新酒）をテーマとして、町内会の集会場、会員の施設などで開催しています。その際、出席者全員、自分が今1番伝えたいことを数分間でスピーチした上で、一人1000円のスマイルをしています。

9月7日(木)、鶴岡南RC第1100回目の記念すべき例会が、「鈴木一作ガバナー夜の公式訪問」として開催されました。もちろん、懇親の場では出席者全員が数分間のスピーチをして、一人1000円のスマイルをしました。また、当クラブでは、例会100回毎に公園、学校、保育園などに記念植樹をしてきましたが、イアン・ライズリーRI会長からの要望「一人一本の木を植える」を念頭に、今回も同様の企画を検討しているところです。

公式訪問では、鈴木ガバナーから新入会の木村彩子さんに記念のバナーが贈られました。ガバナーは女性の入会がRI会長賞をとる上で大きなポイントとなることを力説されていただけに、当クラブもRI会長賞を目指して頑張りたいと思います。



最後になりますが、地区補助金を活用した「知的障害者のフロアホッケー大会」開催が今年で9回目となります。開催前日、フロアホッケー協会山形支部から借りたヘルメットを搬入したり、テープでコートを作ったり、机や椅子を並べたりなど、市体育館での会場設営に、大会参加施設の職員と当クラブ会員と一緒に汗を流します。そして、感動の1日を迎えるのです。今年は12月3日(日)に予定されていますので、ぜひお越しください。

天童RCを語る

来訪日：2017年9月8日(金)
幹事：加賀 善子

天童RCは、日本で253番目、山形県で4番目に設立された老舗のクラブです。現在の会員数は46名で、年齢層は34~89歳と幅広く、平均年齢は60.1歳という大変バランスの良いクラブです。

我がクラブの自慢は、大先輩の存在感と若いメンバーの活気に満ちた雰囲気の中、週一回の例会で学び合えること、そして会員一人一人が責任感の強いことです。だからこそ、委員会活動でも、会長は「任せて安心！」なのです。また、他クラブとの交流も盛んで、スキーやゴルフで親睦を深めています。スキーは滑れないという人でも、夜だけ「ウイスキー(宴会)」に参加して、大いに場を盛り上げてくれます。

当クラブは、本年3月に60周年を迎えました。懇親会では、数ヵ月前から練習を重ねてきた「天童ロータリーソング」と「上を向いて歩こう」を全員で歌いました。しかも、ただ歌っただけではありません。上パートと下パートに分かれての2部合唱です。それだけに、練習も大変でした。毎週の例会前に全員が集まり、先生(メンバーの奥山さん)の指導の下、誰もが真剣に取り組み、本番を迎えました。この合唱のおかげで、クラブの結束は一段と強くなったと思います。これからも、仲間作り(会員増強)に力を入れながら、皆が楽しく活動できるクラブを目指していきます。



南陽臨雲RCを語る

来訪日：2017年9月11日(月)
会長：小関 弘志

我がクラブは、2001年に2800地区57番目（現在は50クラブに減少）のクラブとして誕生し、今年で17年目を迎えます。2800地区で一番新しく、また50歳代の会員が多数を占める若いクラブです。

「臨雲」とは、山の頂きに立ち、眼下に雲海、そして郷土の美しさを見晴らし、瞑想思索することを意味します。また、南陽市出身で日本経済の舵取り役を果たした日銀総裁15代目、結城豊太郎氏が人材育成のために赤湯町に創設した「臨雲文庫」を倣い、望雲の情を持ちながら知識・能力を修得すべく勉勵していく姿勢を意図しての命名でもあります。

我がクラブの自慢は、例会が活気に満ちて和気藹藹、寛容と温情にあふれる意欲的な会員ばかりであることです。ほとんどが地域の第一線で働いているだけに、地元貢献できるクラブ作りを目標に、日々頑張っております。

個性的なクラブ運営、仲間としての会員増強に努めるとともに、地域に密着した奉仕活動、環境保全運動、児童生徒の健全育成支援活動などに取り組んでいます。また、東日本大震災の復興支援を掲げ、芋煮などの炊き出しボランティア、書籍の献本活動、2013年には介助犬デモンストレーションなども実施してきました。

ガバナー公式訪問は夜例会ということで準備に戸惑いましたが、会員の協力をいただきながら、和やかな雰囲気の中で、とても充実した会合となりました。鈴木一作ガバナーからは、ロータリークラブとは「訓練・学びの場」であり、会員同士の意見交換、情報交換などを積極的に行い、会友同士が知識や経験、気持ちや考えを交わし合うことこそロータリーの根幹であるという、熱いお言葉を頂戴いたしました。南陽臨雲RCは、個々の能力を発揮しながら、同じ目標を共有し、語り合い、信頼し合える、そして笑顔の絶えない仲間の集まりです。まさに、鈴木ガバナーが言うロータリーの根幹を大切にしています。



まだまだ若いクラブではありますが、これから新しい歴史、伝統を築いていけるよう、一意専心、一層の努力をしていく所存です。



酒田RCを語る

来訪日：2017年9月13日(水)
会長エレクト：茂木 英一

我がクラブには、3つの自慢があります。1つ目は、当ブロック内で3クラブが活動の終焉を迎え寂しくなっている中、来年に創立60周年を迎えることです。会員数が激減してきたことは確かですが、60年もの歴史を積み重ねてきたのです。

2つ目は、姉妹クラブとの深い絆を持ち続けていることです。北は北海道の小樽南RCと16年に亘る北前船で結ばれた友好、そして南は、西郷南洲翁との歴史を契機とした鹿児島RCとの38年の長きに亘る交流です。永遠（とわ）に、3クラブの結束が緩むことはないでしょう。

3つ目は、奉仕プロジェクトの企画力が抜群なことで、会員企業の業務内容を上手に活用しながら、プログラムを計画・実施しています。例えば、今でこそ日常茶飯事になっていますが、NTT会員の協力のもと、インターネット例会を2回ほど開催しました。当時のガバナーからは、他に例を見ない企画と称賛されました。また、全日空会員の協力では、現役のCA（客室乗務員）を招き、近隣クラブもお誘いしての「service」講座を開催しました。

まだまだ沢山ありますが、今後とも酒田RC会員としての“矜持”を胸に抱き、5年先、10年先を見据えながら、クラブ会員全員でロータリー活動に邁進していく所存です。



東根RCを語る

来訪日：2017年9月21日(木)
会長：網干 康



東根RCは1966年の設立で、昨年50周年記念事業を終え、今年で51年目を迎えます。現在の会員数は34名(うち女性1名)。最年少41歳から最年長83歳まで、平均年齢61歳の壮年クラブです。

我がクラブの特徴の一つは、“根っからのロータリアン”が多いということです。言い換えれば、RC入会前から自己の事業や商売を超えて社会奉仕活動に積極的に関わってきた方たちが、まさに奉仕の理念に共鳴して入会した方が多いということです。例えば、私費を投じて小学校に図書を毎年寄贈していた、小学校の課外活動に参加していた、人づくり運動に貢献していた、市の施策に提言・助言する

立場にいたなど、入会前から奉仕の理念を日々実践していた“根っからのロータリアン”ばかりです。さらに、全国を飛び回って講演活動を積極的に行っている会員、商工観光事業や育英会事業等の重責を担ってきた会員も多く、「ロータリーの目的」を全員が日々実践しているのです。

東根RC全体の活動としては、地区補助金事業として承認された「羽州街道交流会・山形県東根大会」があります。その一つの「よじろう駅伝」には、当クラブ最高齢の会員もランナーとしてエントリーします。10月21日に実施されますので、テレビや新聞報道などを通じて、当クラブの心意気を感じとっていただければと存じます。

もう一つの特徴、というより伝統は、青少年交換派遣事業に積極的に関わってきたことです。これまで受け入れ学生25名、派遣学生23名(うち派遣財団奨学生1名)を応援してきました。今年度も、クラブから1名の派遣学生を推薦し、選考結果を待つばかりです。

ガバナー公式訪問例会の前に、東根中央RCの三宅一人会長、高橋和春幹事とともに、土田正剛東根市長を表敬訪問しました。土田市長からは、「元気ある東根市にふさわしく、菅繁三ガバナー(1988-1989)以来のガバナーを是非輩出してほしい」と切望されました。東根RCには、ふさわしい人材が沢山在籍しています。今後に期待してください。

最後に、これも我がクラブの自慢ですが、東根RCには鈴木ガバナー推薦の『無私の日本人』(磯田道史著)に描かれたような会員が多く、例会ではいつも心が洗われる想いになります。



中山RCを語る

来訪日：2017年9月25日(月)
幹事：西村 雅之

我がクラブは、会員数12名ではありますが、まさに「少数精鋭」の集まりです。クラブ自慢の一つは、5年間、地元「豊田小学校野草観察園」の整備事業を続けていることです。毎年5月末の開花時期に可憐な花が咲くのを心待ちにしながら、全会員で春、夏、秋と早朝草刈り作業を行い、豊田小の児童らと一緒に「ヒメサユリ」の球根を植えて汗を流しています。また、地区補助金を活用して、橋や、ウッドチップを敷き詰めた散策道などの整備も続けてきました。そんな我々の苦労を嘲笑うかのように、昨年はイノシシから、今年はネズミから、せっかく育てた球根が食害を受けてしまいました。それでも我々は、再び球根を植え、あるいは採取した種から育成しながら、鳥獣被害対策を練って「ヒメサユリの群生地」を目指します。



また、地元の県野球場でのプロ野球イースタンリーグ公式戦「楽天イーグルス」の試合観戦を、近隣クラブとの合同例会



会として、球団設立以来ずっと続けています。今季はナイターが無くて開催できませんでしたが、来季以降も、チームへの花束贈呈、始球式、特産品プレゼント等の企画による「中山RCナイター」を計画しています。

「鈴木一作ガバナー公式訪問」では、鈴木政康ガバナー補佐、大沼保義地区大会実行委員長にもお出でいただき、佐藤俊晴中山町長を表敬訪問。続く協議会、公式訪問例会で鈴木ガバナーは予定時間を越えて熱く語られ、その後の懇親会では一人一人と盃を酌み交わし、和やかな懇談の場となりました。

天童東RCを語る

来訪日：2017年9月27日(水)
幹事：相馬 勝博

将棋といで湯の里にある天童東RCは、創立33周年です。会員数は現在53名ですが、人材の多様性と会員間のコミュニケーションの良さが自慢のクラブです。

当クラブからは、野川桂一氏、新関彌一郎氏の2名のガバナーを輩出し、地区委員会の役職に何名もの人材を送っています。人材の多様性がゆえに、ロータリーに対する関わり方や考え方には人それぞれ多少の違いはありますが、会員間の親睦交流は盛んで、クラブ行事には全員が結束して協力します。

奉仕事業としては、毎年、障害者福祉サービス事業所「天童ひまわり園」とグランドゴルフや植栽事業を通して交流を深めています。また、8年前からタイ国の友好クラブであるスリーウォンRCと協力して、タイ・バンコクへ浄水器の贈呈を継続的に行っています。

会員増強については、これまで会員高齢化による平均年齢の上昇が問題とされてきました。しかし、ここ数年は若い会員の入会が増えてきて、徐々にではありますが改善方向にあります。

9月27日の鈴木一作ガバナーの公式訪問では、年次計画書・報告書の充実、特にクラブ活動の充実について、お褒めの言葉を頂戴しました。今後とも、より一層、活発な活動運営ができるように努めてまいります。



高島RCを語る

来訪日：2017年9月28日(木)
幹事：庄司 薫

高島RCは、会員数49名(女性3名)で活動しており、51年の歴史のあるクラブです。我がクラブの自慢は、チャーターメンバーを始め諸先輩の会員から新会員まで、「友情と親睦」を大切に和気あいあいとした雰囲気があり、退会者も少ないことです。

高島の町民性である「暖かく、親しみやすく、アットホーム」がそのまま高島RCの雰囲気になっています。例会を工夫し、会員のお店で「そば例会」「寿司例会」「ひっぱりうどん例会」の開催は毎年恒例になっており、年7回の夜の移動例会も工夫を凝らし、会員みんなで楽しめる例会づくりを心がけています。

奉仕活動も31回の歴史があり、特別養護老人ホーム「はとみね荘」「まほろば荘」への慰問や、町内の小学校に毎年「ロータリー文庫」として本の寄贈もしています。

9月28日(木)はガバナー公式訪問でした。夜の例会でグループディスカッションもあり、今までになかった公式訪問なので大変緊張しましたが、グループディスカッションではいろんな意見が出て、改めて我がクラブの課題を話し合えたとともに、会員のクラブへの想いも聞くことができ、とても良い機会となりました。鈴木ガバナーからも地区目標を含めた講話をいただき、2800地区における高島RCの役割を改めて考えることもでき、クラブの未来を考える有意義な時間でした。

遅い時間の懇親会にもかかわらず、鈴木ガバナーには各テーブルを回って会員の話に耳を傾けていただき、最後まで大変盛り上がりしました。

今年度は会員50名を目指し、鈴木ガバナーのもとで実りある充実した活動をしていきたいと思っております。



米山奨学生レター

vol.4

東北公益文科大学1年
ブッタボン
ヌッタマート (ラオス)



私がお世話になっているクラブは酒田スワンです。4月に初めて例会に参加した時はとても緊張しましたが、皆さんから“おもてなしの心”で接してもらい、本当によかったです。毎月一回は例会に参加して、



色々なことを話したり、アドバイスをもらったりして、日本のことが分かるようになりました。日本の文化、生活に役立つことなども教えてもらいました。皆さんは本当に優しく、とてもユーモアのある方々で、家族のように感じています。

また、懇親会に出て、他の国の人も出会うことができました。色々な情報も交換できて、本当に良かったです。話を聞いて、自分の夢を叶えるために頑張っている感じがしました。私も自分の夢を叶えられるように頑張ります。これからも、いただいた米山奨学金を大事にしなが、毎日が貴重な時間とって過ごしていきたいと思っています。

米山奨学生レター

vol.5

東北芸術工科大学3年
イ ジェムン
李 哉炆 (韓国)



私は、山形南RCの例会に参加して、クラブの皆さんと交流を深めています。最近、日本と韓国の関係が良くないことは事実ですが、民間の人々の交流こそが大事だと思います。お互いの国の歴史や文化を



理解し、友情を深めていくことが、世界平和に繋がると思うからです。

私は、東北芸術工科大学で日本の文化と絵画修復を学んでいます。以前は、「日本の文化や修復技術を理解して作品を修理したい」と単純に思っていました。しかし、大学での勉強や様々な人との出会い、特にロータリーの皆さんとの交流を通じて、今では「人間の営みである芸術文化を守る人材になりたい。人々の思いや文化財を未来に伝える役割を果たしたい。米山奨学会の理念をさらに理解して、日本と韓国、日本と世界との架け橋になりたい」と考えるようになりました。これからも、ロータリー活動に積極的に参加していきたいと思っています。

米山奨学生レター

vol.6

山形大学3年
ソン リュヤン
宋 侶洋 (中国)



私は、異国の文化を肌で感じつつ、最先端の学問を日本語で学び、その経験を人生の貴重な財産にしたいと思っています。しかし、私費留学生の私にとって経済的な負担は大きく、厳しいものがあります。そのような状況の中、米山記念奨学会の奨学生に採用していただいたことで、安心して充実した大学生生活を送ることが



できています。ありがとうございました。

私は今、米沢ロータリークラブの皆様にご世話になっています。家族みたいで、何回も美味しい料理をいただき、ご馳走様でした。最高級の米沢牛も食べました。本当に美味しかったです。ロータリーの方々の、忙しい時でも自分の時間とお金を削って他人を助ける精神を心から尊敬していますし、私自身も社会貢献への意識が高まりました。

日本に来て、驚いたことや面白いことがたくさんありました。私は、それらの経験を中国の友達に伝えたり、日本人の友達に自分の母国はどんな国なのかを話したりすることが好きです。微力ではありますが、日中友好に力を捧げたいと心から思っています。これからも、よろしくお願ひします。

ローターアクトのコーナー

鶴岡ローターアクトクラブ

(提唱クラブ: 鶴岡)

2017-2018 年度クラブターゲット「ステップ」

今年度、鶴岡RACは2800地区のホストクラブを務めます。前年度はクラブターゲットを「ホップ」と掲げ、今年度を成功させるための準備期間として活動してきました。今年度は年次大会に向けて更にステップアップしていこうという思いを込めて、クラブターゲットを「ステップ」としました。

会員数は男1名、女7名ですが、一人一人がアクターとしての意識を高め、会長である菅原、地区代表である三浦をはじめ、会員全員で日々の活動に取り組んでいます。現在、男性の会員を大募集中です。

当クラブの主な活動は、鶴岡RCとの清掃活動、地域行事「山王ナイトバザール」への出店、児童養護施設「思恩園」の子供たちとの交流、「フクシマの子どもの未来を守る家」という団体との共同事業です。特に、山王ナイトバザールでは多くの方が訪れ、RACのPRの場ともなるため、特に力を入れて取り組んでいます。また、今年度の新しい計画として、鶴岡市の「赤川花火大会」でスタッフとしての参加があります。多くの奉仕団体と接する機会ともなるため、地域へのPRに繋がると考えています。

今年度は、RCの皆様、地区内RACの皆様と連携しながら、地区とクラブの両方を運営していくことになります。よろしくをお願いします。



インターアクトのコーナー

山本学園高等学校

(スポンサークラブ: 山形)

山本学園高等学校の今年の部員数は、1年生14名、2年生28名、3年生15名の合計57名です。



校内の活動としては、校庭の整備清掃、ペットボトルのキャップ集めなどがあります。ペットボトルのキャップ集めは10年前からの活動で、その意義について調べ、話し合いもしています。学園祭では、チャリティバザーを開催しています。寒河江の『らっふる』、天童の『のぞみ光の家』の利用者の皆さんが作ったお菓子や小物を販売し、収益金を全てお渡ししています。

校外の活動としては、春と秋に開催される『あしなが募金』の募金活動、老人ホームの夏祭りなどのお手伝い、日本一の芋煮会や城西地区の盆踊りの会場準備などがあります。また、被災地支援として6年前から多賀城市の側溝の泥上げ、七ヶ浜町の田んぼの異物撤去、3年前からは岩手県大槌町の吉里吉里海岸の清掃、現地の方からの体験をお伺いするなどの活動も行っています。



ガバナーの想い

11月は、「世界インターアクト週間（11月5日を含む1週間）」もあります。これまで、インターアクト（IAC）やローターアクト（RAC）の活動が見えない、分からないという声をよく耳にしました。そうした声を受けて、今年度のガバナー月信では彼らの活動を毎月掲載しています。彼らの想いと活躍している現場を、皆さんに少しでも知って欲しいからです。

彼らを支援しているクラブに対して、私は心から敬意の念を抱いています。財政的援助も人的援助も、決して楽ではないはずです。その苦勞と喜びをガバナー公式訪問で耳にする度に、「ああ、ここにも素晴らしいロータリアンがいる」と気づかされ、私は目頭が熱くなるのです。

「IACやRACの奉仕活動は、地域に対して大きな

貢献はもたらしてはいない」と考えている方もいるかも知れません。しかし、果たしてそうでしょうか。彼らの活動は、寄付や寄贈ではありません。むしろ、知恵と時間と汗が主体の奉仕です。時には、彼らなりの勇気や覚悟も必要です。人としての学びや成長もあるでしょう。やがて、それは地域の大きな活力となるのです。

地域の健全な発展には、若者の活力が不可欠です。私たちの老後を支えてくれるのも若者です。都会や世界で活躍する若者を育てることも大切ですが、私はむしろ故郷を支える若者を立派に育てたい。活躍の場を与え、自信と意欲を深めて欲しい。それは、「地域を耕す」ことに他なりません。それに尽力しているロータリアンこそ、私は最も尊敬します。

青少年交換学生 月次報告



菊地 真穂 さん

- 派遣国：台湾
- ホストRC：斗南
- スポンサーRC：寒河江

台湾に来て1か月。毎日が本当に充実していて、私はもう日本に帰りたくないなと思いはじめています。9月は、夜市や遊園地などに行きました。夜市では、臭豆腐という台湾特有の食べ物にもチャレンジしましたが、口に合わず一口しか食べられませんでした。それでも台湾には美味しい食べ物も沢山あり、最近では少し体重が増えたような気がします。

最近では、交換学生同士の会話にも、少しずつ中国語が飛び交うようになってきています。台湾に来て間もない頃は、他の交換学生のように英語が上手く話せないで、「友達になれるだろうか」と心配していました。しかし、今ではもう、彼らはかけがえのない友人で、大切な仲間です。また、台湾人の友達も増えました。日本のアニメや食べ物について聞かれたり、歌を唄うように頼まれたりすることもあります。台湾の言葉を学ぶ機会が増えたこと、台湾についてもっと知ることができるようになったことはもちろん、相手にも日本や山形県に興味を持ってもらえるようになり、嬉しく思っています。



私が通う義峰高級中学では、9月から交換学生対象の中国語の授業が始まりました。また、日本語を教えている先生もいらっしゃるのので、その授業にも出ています。日常会話の習得にも役立っています。

台湾には3大イベントの一つ、中秋節（日本でいうお月見のようなイベント）が10月4日にあります。その日が近くなると、台湾の人は月餅（月に見立てたお菓子）を食べたり、バーベキューをしたりします。斗南RCやホストファミリーの方々とも、バーベキュー・パーティをしました。

今では、台湾に来たばかりの頃とは違い、ほとんど言葉で悩むことが無くなりました。勉強は少し大変ですが、私の中国語を分かってもらえたり、逆に教えてもらったりするのが嬉しくて、頑張ることができています。時には、台湾と日本の文化や生活の違いから、そうなのかと気づかされることもあります。質問されて、初めて気づいたこともあります。これも、日本には分からなかったことの一つだと思えます。気づきを大切に、これからも一日一日、精一杯過ごしていきます。



沈 予媛

- 出身国：台湾
- ホストRC：寒河江
- 高校名：山形城北高等学校

●日本でやってみたいことと抱負

東京、大阪、北海道、そして日本の象徴である富士山に行ってみたいです。冬はスキー。そして、台湾の父母が11月の地区大会に来日予定なので、それまでに日本語をしっかりと覚えたいです。

●近況報告

日本に来て1か月が経ちました。この1か月は、たくさんの体験をしました。浴衣での花笠踊りや花火。お餅を食べることに挑戦しました。今は寒河江駅から山形城北高校へ元気に通っています。部活動は弓道部に入り、たくさんの友達ができました。日本語もだいぶ理解し、会話もできるようになりました。色々なことにチャレンジしながら、楽しく充実した日々を送っています。



Justin James
CANNIZZARO

- 出身国：アメリカ
- ホストRC：鶴岡
- 高校名：羽黒高等学校

●日本でやってみたいことと抱負

日本語が上手になって、ホストファミリーや学校の友達と仲良くしていきたいです。日本の食べ物は、ラーメン、カレーライス、すし（生以外）、とんかつが大好きです。日本のお寺と神社に興味があるので、京都にも行ってみたいです。

●近況報告

9月7日の17歳のお誕生日を、ホストファミリーの皆さんにお祝いしてもらいました。海に行って綺麗な夕日、月、星を見たり、加茂水族館に行ったり、大好きなボーリングをして楽しかったです。例会などでの日本語の挨拶は大変ですが、頑張ります。10月1日から2番目のホストファミリーに移りました。日本のお父さん、お母さん大好きです。





青少年交換・学友小委員会報告

2017年9月23日(土)
蔵王ライザ・ウッドイロジ

青少年交換・学友小委員会 委員長
今間 勝見 (鶴岡西RC)



これまで青少年交換委員会では、派遣候補学生を対象として、研修を兼ねた東北3地区(2520・2530・2800)合同スプリングキャンプとウィンターキャンプを毎年開催してきました。それだけに、今年7月の全国青少年交換委員長会議では、2520地区と2530地区のメンバーと「来日学生を対象としたキャンプも開催したいですね」という話になりました。すなわち、来日学生が日本での生活に馴染んできた9月頃、東北3地区合同の研修と交流を兼ねたキャンプをしようというものです。もちろん、3地区の青少年交換委員が集って問題や情報を早くから共有できることも大きなメリットです。この件を鈴木一作ガバナーに提案したところ快く了解してくださって、9月23日、蔵王ライザのウッドイロジでのオータムキャンプ開催の運びとなりました。

このキャンプには2520地区から5名、2530地区から1名、2800地区からは4名の来日学生、それに当委員会の大滝さん宅にホームステイしているステラも参加して、全員、慣

れない日本語で自己紹介をしてもらいました。また、帰国学生として参加した国井修人君と志田峻平君も、留学で身につけた言葉(ブラジル派遣の国井君はポルトガル語、台湾派遣の志田君は北京語)で流暢に挨拶をしてくれました。

ロータリアンは2520地区から6名、2530地区から3名、2800地区からは鈴木ガバナーと8名が出席しましたが、2520地区にフランスからの来日学生がいるので、鶴岡市商工観光部に籍を置くサラさんにも通訳として参加してもらいました。

午後3時からの開会式では、鈴木ガバナーから歓迎と激励の言葉(英語と日本語)をいただき、遠藤伸一青少年奉仕委員長からはキャンプの目的についての説明がありました。その後、メキシコ地震で亡くなられた方々のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げましたが、2530地区のメキシコからの来日学生カーラはとても感激していました。引き続き、2520地区の佐藤剛青少年交換長期委員長を講師として、「ロータリーのルール」と「日本の生活」についての研修会とワークショップを実施しました。その後、午後5時から戸外でのバーベキュー・パーティーを始めましたが、蔵王の夜は肌寒く、お腹を満たした学生達は7時過ぎにはロッジに入り、学生同士の交流会が続きました。我々ロータリアンも、ロッジに入って情報・意見交換会を延々と続けました。なお、多忙な鈴木ガバナーは翌朝にも別の予定があるため、後ろ髪を引かれる思いで帰宅されていきました。

翌日は、7時に起床して朝食。研修会の後、晴天に恵まれ、清々しい秋を満喫できた蔵王散策で互いの友情を深め合い、帰路につきました。来日学生は、連絡先を交換し合い、すっかり打ち解けたようです。日本での生活も、上手くやっつけていけることでしょう。

オータムキャンプは2800地区が皮切りとなりましたが、参加者にはその意義を感じて喜んでいただけたものと思います。次年度以降も、3県が順番に開催していければと思っています。



2017-2018 クラブ会員数／出席率

ブロック	クラブ名	2017.7.1		2017.9.30			年初からの増減数				累計出席率
		会員数 (女性会員数)		会員数 (女性会員数)	出席率	増 (女性会員数)	減 (女性会員数)				
第1ブロック	酒田	27 (3)		27 (3)	79.63	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	81.31	
	酒田東	35 (5)		36 (5)	90.30	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	90.37	
	酒田中央	37 (0)		37 (0)	81.92	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	83.69	
	酒田スワン	15 (6)		15 (6)	82.14	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	83.33	
	酒田湊	15 (3)		15 (3)	93.33	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	95.37	
第2ブロック	鶴岡	28 (5)		29 (5)	85.19	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	85.53	
	鶴岡西	33 (4)		34 (4)	80.81	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	83.36	
	余目	29 (1)		30 (1)	69.00	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	69.73	
	立川	14 (0)		13 (0)	95.45	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	91.67	
	鶴岡東	28 (1)		28 (1)	85.71	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	85.54	
第3ブロック	鶴岡南	20 (3)		19 (3)	78.95	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	76.10	
	天童	45 (3)		46 (3)	97.38	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	94.97	
	東根	34 (1)		34 (1)	77.20	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	84.86	
	天童東	47 (0)		52 (0)	87.77	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.66	
	天童西	18 (2)		20 (2)	86.67	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	86.25	
	東根中央	45 (3)		46 (3)	78.20	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	78.92	
	村山	10 (0)		10 (0)	100.00	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	98.33	
	新庄	14 (2)		15 (2)	86.67	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.22	
	尾花沢	19 (0)		19 (0)	90.79	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	88.60	
	最上	22 (1)		23 (1)	43.24	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	48.96	
	尾花沢中央	16 (1)		17 (1)	86.13	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	86.87	
第4ブロック	村山ローズ	18 (5)		19 (5)	77.00	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	81.67	
	新庄あじさい	15 (0)		15 (0)	86.67	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.41	
	寒河江	52 (2)		54 (2)	89.74	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	89.30	
	大江	16 (1)		17 (1)	100.00	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	100.00	
	河北	29 (0)		29 (0)	76.53	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	82.12	
	寒河江さくらんぼ	40 (3)		40 (3)	82.70	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	86.60	
第5ブロック	西川月山	13 (0)		13 (0)	86.97	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	79.04	
	山形	90 (2)		94 (2)	100.00	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	100.00	
	山形北	58 (0)		65 (2)	95.03	7 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	95.18	
	山辺	24 (0)		23 (0)	97.10	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	95.29	
	山形南	53 (2)		53 (2)	95.86	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	96.09	
	中山	12 (0)		12 (0)	79.17	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	78.24	
	山形西	101 (0)		102 (0)	94.30	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	95.53	
	上山	15 (3)		16 (3)	68.75	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	68.75	
	山形東	32 (1)		31 (1)	91.03	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	91.43	
	山形中央	40 (3)		40 (3)	94.51	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	95.26	
第6ブロック	山形イブニング	30 (1)		30 (1)	66.67	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	64.10	
	米沢	59 (8)		61 (8)	75.41	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	87.28	
	米沢上杉	66 (3)		69 (4)	98.19	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	98.67	
	高島	49 (3)		49 (3)	67.86	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	67.18	
	米沢中央	38 (4)		39 (5)	98.08	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	98.36	
	米沢おしょうしな	28 (3)		28 (3)	64.29	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	71.43	
	長井	29 (1)		29 (1)	73.35	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	78.40	
	南陽	12 (1)		13 (1)	82.80	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	82.72	
	白鷹	20 (0)		20 (0)	79.74	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	82.99	
	小国	17 (0)		17 (0)	100.00	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	84.76	
	南陽東	33 (2)		36 (2)	74.26	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	70.89	
	長井中央	18 (1)		20 (1)	0.00	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	78.15	
	南陽臨雲	30 (3)		29 (2)	0.00	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	78.86	
合計	1588 (96)		1628 (99)	81.05	49 (4)	9 (1)	9 (1)	0 (0)	84.69		



ロータリー情報のコーナー 〈 5 〉

ロータリー情報小委員会 守屋 文夫



芝 染太郎

芝染太郎は1870年に愛媛県宇和島近郊で生まれ、青山学院大学を卒業後、1894年に単身ハワイへ移住。ジャーナリストを志して日系新聞「ハワイ新報」に入社し、1905年には同社を買収して社長。その後、1916年に帰国して外務省の外郭団体「ジャパンタイムズ」に入社、1921年には同社を買収して社長になっています。1924年、米山梅吉のいる東京RCに入会。1937年、第70地区（1928年7月、日本と朝鮮と満州を合わせた第70地区が設置）の地区幹事に就任しました。「RIの中央集権化から離れて日本独自の自治分権ロータリー組織を発足させよう」という米山らの悲願を託され、1939年6月にクリーブランド国際大会で特派代表として交渉（議案39-9）。その甲斐あって同年7月に設立された日満ロータリー連合会（RIJM）では、幹事に就任しています。芝氏の著作「\$の国アメリカ」には、RIJMの交渉にあたり、友人であったシカゴの新聞社社長への土産「日本

刀」を携えてRI本部を訪れ、剣舞を披露したことが書かれています。結局、交渉が決裂すれば切腹も辞さないという気迫が功を奏してか、RIがRIJMの存在と自治地域の適用をしつづき黙認したというのが真相のようです。RIJM設立には、当時の歴史的背景を考えなければなりません。アメリカに本部があるロータリーに対して、1935年頃から軍閥による弾圧が始まり、その激しさはどんどん増していきました。そうした中、日本にロータリーという運動体を残すために目指したのがRIJMの設立だったのです。現在では当たり前の「例会で国旗を掲げ、月初めに君が代を歌う」というセレモニーも、実は国家への忠誠心を示すために考えられた「歴史的な名残」だと言われています。結局、1940年には日本のRCは全てが解散しています。残念なことに芝氏は、ロータリー護持の姿勢がチェスレイ・ペリーの誤解を受け、1949年のRI復帰の会員選考では入会拒否にあい、同年、失意の中でこの世を去りました。

新入会員紹介



佐藤 勝

所属クラブ / 新庄あじさい
職業分類 / 商業銀行
入会日 / 2017.7.1



齋藤 尚

所属クラブ / 鶴岡
職業分類 / 電気設計
入会日 / 2017.7.4



春日 茂

所属クラブ / 大江
職業分類 / 食品製造・卸・販売
入会日 / 2017.9.1



田桑 秀

所属クラブ / 余目
職業分類 / 郵便局
入会日 / 2017.9.26



植松 栄一

所属クラブ / 米沢上杉
職業分類 / 配管設備工事
入会日 / 2017.10.2



吉田 耕一

所属クラブ / 米沢上杉
職業分類 / 造園業
入会日 / 2017.10.10

表彰関係



ポール・ハリス・フェロー
メジャードナー

第24回米山功労者
メジャードナー

小松 栄一 (寒河江 RC)



マルチプル
ポール・ハリス・フェロー (5)

大沼 保義
(寒河江 RC)



第5回米山功労者
マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

新藤 幸紀 (山形西 RC)



第5回米山功労者
マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

岡崎 治彌 (山形西 RC)

2018-19年度国際ロータリー会長にバリー・ラシン氏が選ばれる



サム・オオリ国際ロータリー (R I) 会長エレクトの急逝により、会長指名委員会から2018-19年度国際ロータリー (R I) 会長として選出されていた、バハマ・ニュープロビデンス島のイーストナッソー・ロータリークラブ所属のバリー・ラシン氏が、イアン・ライズリー R I 会長によって9月1日、R I 会長エレクトとして宣言されました。

ラシン氏は会長として、公共イメージの向上と、ロータリーのインパクトを広げるためのデジタルツールの活用に力を入れたいと考えています。

11月の 地区スケジュール

11/1 水	G公式訪問 (西川月山)
2 木	
3 金	文化の日
4 土	
5 日	第1ブロックIM
6 月	
7 火	
8 水	
9 木	
10 金	
11 土	よねやまナイト in 山形 地区大会 (山形：寒河江RC)
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	
16 木	
17 金	
18 土	米沢上杉RC55周年記念式典 地区大会 (愛知：名古屋名駅RC)
19 日	
20 月	ロータリー研究会/R財団地域セミナー (東京)
21 火	メジャードナー顕彰午餐会 (東京) ガバナーエレクト研修セミナー (GETS) ガバナーノミニー研修セミナー (GNTS)
22 水	
23 木	勤労感謝の日
24 金	
25 土	
26 日	第3ブロックIM
27 月	G公式訪問 (酒田)
28 火	
29 水	G公式訪問 (山形)
30 木	
12/1 金	
2 土	米山奨学生選考試験 (山形市)
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	第2回 諮問委員会 第1回 地区チーム研修セミナー 国際協議会歓送会
10 日	

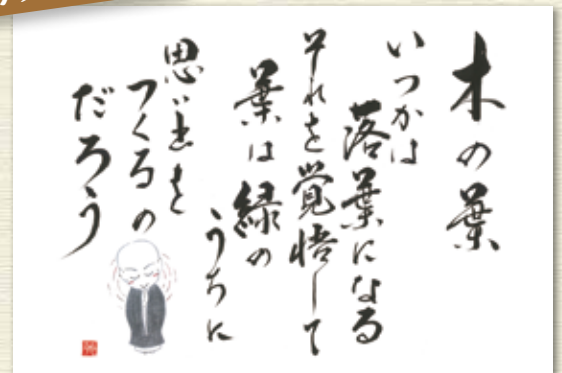


寒河江十景 チェリーランド

山形県のほぼ中央に位置し、東に蔵王、西には月山、葉山の山々を一望できる「道の駅寒河江」は、東北一の規模と施設を誇るさくらんぼのテーマパークです。

県内各地の特産品、工芸品が揃う「チェリーランドさがえ」やさくらんぼの資料を展示する「さくらんぼ会館」、「トルコ館」などがあります。また世界12ヶ国140本のさくらんぼが植栽されている「国際チェリーパーク」は、花や、真っ赤に色づきたわわに実ったさくらんぼが楽しめます。

今月の言葉




◇ガバナー事務所

〒991-0041 寒河江市寒河江鷹ノ巣7番地
TEL: 0237-85-1882 FAX: 0237-85-1883
E-mail: ri2800suzuki@helen.ocn.ne.jp

◇地区事務所

〒994-0034 天童市本町2-1-31 天童セントラルホテル2F
TEL: 023-687-0208 FAX: 023-687-0209
E-mail: ri2800@muse.ocn.ne.jp

◇ホームページ

国際ロータリー山形 検索 
<http://www.rid2800.jp>

